

平成 29 年度

自己評価委員会・学校関係者評価委員会 報告書

学校法人 実教学園

F・C フチガミ医療福祉専門学校

2018年10月15日

## 平成29年度 自己評価委員会・学校関係者評価委員会 報告書

学校法人実教学園 F・C フチガミ医療福祉専門学校は、平成29年度の自己点検・自己評価を行い、自己評価委員会を実施、本校規定に基づいて学校関係者評価委員会を開催し報告書をまとめましたのでここに公表いたします。

学校関係者評価委員会からの意見を真摯に受け止め、教育力のさらなる向上、より良い学校運営を目指して教員一同努力してまいります。

今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■ **実施日時** 2018年9月15日(土) 10:00～11:30 本校204教室

### ■ **参加者**

➤ 学校関係者 外部委員

◇ [企業・団体等関係者]

- 戸次 弼子 日本診療情報管理学会 評議員
- 田尻 小夜子 広瀬病院 統括部長
- 石田 圭子 高宮くすくすの丘保育園 主任保育士

◇ [教育に関し知見を有する者]

- 岸川 公紀 中村学園大学短期大学部 准教授

◇ [卒業生代表]

- 長島 永青 浜の町病院 情報管理課 診療情報管理室 診療情報管理士

➤ 学校教職員

- 吉田 登志子 学校長
- 天野 裕二 事務長
- 吉田 悟志 企画広報室 課長
- 蓮井 栄二 教務課 課長、学校関係者評価委員会担当

## ■ 学校関係者評価委員会 評価結果

各評価項目に関して 29 年度の課題・改善方策を検討し、学校関係者評価委員会の意見をうかがいながら改善に取り組み、一定の改善が認められた。(一部、評価減を含む)

自己評価委員会において 29 年度の達成状況を確認、30 年度の課題を検討、学校関係者評価委員会の意見を伺いながらその課題に関して今年度の改善方策をまとめた。なお、自己評価委員会が評価をまとめるにあたり、全教職員対象に同評価項目に関する達成状況のアンケートを行い、評価の参考としている。

### 1. 教育理念・教育目標

評価項目	評価
① 教育理念・教育目標は、定められているか。	④ 3 2 1
② 教育理念・教育目標は、社会のニーズにあっているのか。	④ 3 2 1
③ 教育理念・教育目標は、学生・保護者に周知されているか。	4 ③ 2 1

<29 年度達成状況>

評価に変更なし

<30 年度改善方策>

前年度より検討していた教育理念・教育目標の学校内（教室内）掲示を実施する。

<学校関係者委員会より>

③について、他校の事例としては学生により浸透するよう教育理念等を名札の裏に入れたり、学校から配布するスケジュール帳などに入れる事例もある。

→ 今後学生に配布したり、いつもふれる物の中に取り入れていくことも検討していくこととした。

## 2. 学校運営

評価項目	評価
①学校の教育目標に沿った事業計画が策定されているか。	④ 3 2 1
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	④ 3 2 1
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されており、有効に機能しているか。	④ 3 2 1
④人事・給与等に関する規則等は整備されているか。	④ 3 2 1
⑤業界や地域社会等に関するコンプライアンス体制が整備されているか。	④ 3 2 1
⑥教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	④ 3 2 1
⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	④ 3 2 1
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	④ 3 2 1

<29年度達成状況>

⑤ 3 → 4

コンプライアンス規定の周知徹底を行った。

⑥ 3 → 4

教員へのアンケート調査結果からも意思決定システムに関しては概ね問題ないと判断した。

<30年度改善方策>

- ・個人情報の保護とあわせコンプライアンス厳守のため定期的な啓蒙活動を今後も実施していく。

- ・意思決定の方法としてボトムアップの仕組みが生まれるような部会や職員会議のありかたを模索していく。

<学校関係者委員会より>

⑥について、情報交換のためいろいろ伝達事項が多くなってくるとそれに時間を取られ、教育活動の時間がなくなることにもつながってくる恐れもある。何か新しく始める場合には何かひとつ減らす努力も必要になってくる。

→ 業務の改善の方向性とし常に気を付けることとした。

### 3. 教育活動

評価項目	評価
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	④ 3 2 1
②教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④ 3 2 1
③学科のカリキュラムは体系的に編成されているか。	④ 3 2 1
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	④ 3 2 1
⑤関連分野の企業・関係施設等や業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	④ 3 2 1
⑥キャリア教育・実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が行われているか。	④ 3 2 1
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか。	④ 3 2 1
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	④ 3 2 1
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	④ 3 2 1
⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	④ 3 2 1
⑪人材育成目標の達成に向け、授業を行うことが出来る要件を整えた教員を確保しているか。	④ 3 2 1
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか。	④ 3 2 1
⑬関連分野における先端的な知識等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組がなされているか。	④ 3 2 1
⑭職員の能力開発のための研修等がおこなわれているか。	④ 3 2 1

<29年度達成状況>

⑧ 3 → 4

教員のパソコンについて、ソフトウェアの更新を行い環境が改善した。

<30年度改善方策>

- ・学生アンケートの改善を行い、学生の意見が反映させるよう工夫していく。
- ・教員相互の授業見学を実施し、授業の工夫や改善に活用し教育力の向上を図る。
- ・研修を受けた教員の知識・技能を内部的に活用できるよう、内部へのフィードバック方法を検討する。

<学校関係者委員会より>

⑦について、授業見学を有効に機能させていくためには、お互いに言い合える関係を作っていくことが必要。

⑨について、成績評価・単位認定に関しては評価基準を事前に明確化する「ルーブリック」というものも出てきている。新しい試みとして今後検討してはどうか。

→ 今後の検討課題としたい。また、新しい試みとしてアクティブラーニング等についても研修等を考えていきたい。

#### 4. 学修成果

評価項目	評価
①就職率の向上が図られているか。	④ 3 2 1
②資格取得率の向上が図られているか。	④ 3 2 1
③退学率の低減が図られているか。	④ 3 2 1
④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	④ 3 2 1
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか。	④ 3 2 1

<29年度達成状況>

評価に変更なし

<30年度改善方策>

・担任教員と担当教科講師、主任教員、校長が連携し、出席や学習に関して不調な学生の指導にあたり、退学に至らぬよう支援する。

<学校関係者委員会より>

特になし

## 5. 学生支援

評価項目	評価
①就職に関する支援体制は整備されているか。	④ 3 2 1
②学生相談に関する体制は整備されているか。	④ 3 2 1
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	④ 3 2 1
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	④ 3 2 1
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。	④ 3 2 1
⑥学生の生活環境への支援は行われているか。	④ 3 2 1
⑦保護者と適切に連携しているか。	④ 3 2 1
⑧卒業生への支援体制はあるか。	④ 3 2 1
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	④ 3 2 1
⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。	④ 3 2 1

### <29年度達成状況>

⑤ 3 → 4

課外活動の活性化のためソフトバンク試合の年間チケットを購入し、活用した。

⑧ 3 → 4

学生の就職先への訪問等を行い、就職後のケアを行っている。また、通信制の学生を含めた卒業後再受験者の支援と受験結果の把握、てらにし塾、国試対策を実施した。

⑨ 3 → 4

専門実践教育訓練給付金の指定講座の申請や、夜間コースの開設などそれぞれのニーズに合わせた各種のコースを開設している。

### <30年度改善方策>

- ・通信制の学生を含めた卒業後再受験者の支援と受験結果の把握、てらにし塾、国試対策の継続。

- ・卒業後のフォローアップに関して、3年程度は追跡して行えるよう情報収集に努める。

### <学校関係者委員会より>

⑤について、被災地のボランティア活動を課外活動として実施している学校もある。

→ 当校としては授業スケジュールがかなり厳しい事情もあり、実現は難しいと思うが検討していくこととした。

## 6. 教育環境

評価項目	評価
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。	④ 3 2 1
②学内の実習施設・インターンシップ、海外研修の場等については十分な教育体制を整備しているか。*	④ 3 2 1
③防災に対する体制は整備されているか。	④ 3 2 1

※ 海外研修については当校では現在検討していない

<29年度達成状況>

評価に変更なし

<30年度改善方策>

- ・椅子の座面の交換修理を行う。
- ・学生の火災避難訓練を実施する。

<学校関係者委員会より>

特になし

## 7. 学生の受け入れ募集

評価項目	評価
①高等学校等に対して情報提供等の取り組みが適切に行われているか。	④ 3 2 1
②学生募集活動は、適切に行われているか。	4 ③ 2 1
③学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。	④ 3 2 1
④校納金は、妥当なものとなっているか。	4 ③ 2 1

<29年度達成状況>

④ 4 → 3 (評価減)

校納金に関しては、消費税増税も控えており検討が必要。

<30年度改善方策>

- ・入学者を増加させるために、Webの改良、媒体業者の精査等を検討する。
- ・教職員が協力し広報活動を行う。
- ・校納金に関しては、消費税増税のタイミングや競合他校の状況を見て検討する。

<学校関係者委員会より>

特になし



## 8. 財務

評価項目	評価
①中長期的に学校の財務基盤は、安定しているといえるか。	④ 3 2 1
②予算・収支計画は、有効かつ妥当なものとなっているか。	④ 3 2 1
③財務について会計監査が適正に行われているか。	④ 3 2 1
④財務情報公開の体制は、準備はできているか。	④ 3 2 1

<29年度達成状況>

評価に変更なし

<30年度改善方策>

- ・消費税増税に伴い増加した費用分の授業料への転嫁を引き続き検討していく。

<学校関係者委員会より>

特になし

## 9. 法令等の遵守

評価項目	評価
①法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	④ 3 2 1
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4 ③ 2 1
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	④ 3 2 1
④自己評価結果を公表しているか。	④ 3 2 1

<29年度達成状況>

評価に変更なし

<30年度改善方策>

- ・コンプライアンス厳守とあわせ個人情報の保護の定期的な啓発運動を実施していく。

<学校関係者委員会より>

②について、学生名簿など管理が難しいと思われる。個人情報の管理に関しては新人の教育が重要だと思われるので、入口の対応を心がけると良いと思う。

→ 今後の新人教育時に取り入れていくこととした。

## 10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	④ 3 2 1
②学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。	④ 3 2 1
③地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか。	④ 3 2 1

<29年度達成状況>

③ 3 → 4

出前講座を実施している。

<30年度改善方策>

- ・生徒に合ったボランティアを紹介するなどボランティア活動の充実。
- ・学校の教育資源を活用するためより開かれた方法がないか検討していく。

<学校関係者委員会より>

①について、他校では学校を開放して行う公開授業や、地域に出向いて公開講座を行っている事例もある。

→ 当校の立地を生かした講座のあり方などを今後検討していく。

## 11. 国際交流

学科の性質上、国内の学生を対象にする学科のみ開設している状況であり、留学生の受け入れは就職先の確保とともに困難であると判断し行う予定はないため、評価は行なっていない。